

神奈川県山梨教会連合会たより

# かりん

「言葉でうまく伝えられない体感」

宮川昌也先生は、昭和五十四年十月三十日、宮川宜信師・優子師のもとにご出生。大学を卒業後、一般企業に就職して社会人の経験をされた後、平成二十一年に学院入学、翌二十一年に教師補命。平成二十二年に小田原教会長に就任されました。平成二十三年から東京センターにて御用され、翌年十二月に晴江先生とご結婚。二十六年に長女を授けられました。

○教会の長男としてお生まれになられた先生ですが、教会の跡継ぎだという自覚などありましたか？

宮川昌也先生（以下…昌）…いやあ…小さい頃から、うちが普通の家庭と違うということが嫌で、教会を継ぐなんて気は全然ありませんでした。

○そうなのですね。では子どもの頃お祭りの参拝なども、嫌だったのでは。

昌…うちでは、参拝を強制するようなことはなかったのですが、家にいる時にお祭りがあればお参りに出てきなさい、という感じでしたので、そういう時だけお参りしていました。

○ここ小田原教会は周りに金光教の教会もなく、少年少女会などもあまり活動がありませんでしたから、すごく孤立感を感じていました。後に学院に入学した際、同世代

川でスベって山でコロんで…とってきました

## Interview

第40回 小田原教会 宮川昌也先生

の人たちがこんなにいることにびっくりして(笑)、とても嬉しく感じたものです。○ご本部等も参拝されなかったのですか？昌…そうですね、学院入学の為のテストを受けに本部に行ったのが五回目位だったのですが、金光駅を出てまず、右にいくのか左にいくのかで迷ってしまいました(笑)。それ位、金光の事を子弟ながら知らなかったです。

小さい頃は、父と地域のサッカークラブに通い、大きく



なってからも、金光教のイベントなどほとんど参加しなかったですし、そんなイベントをやっていることすら知りませんでした。そういうこともあってか、長男ながら跡を継ぐ方向に進まず、大学を卒業してから普通に就職し、教会から出て一人暮らしも始めました。

○そこからどういった経緯で金光教の教師になられたのですか？昌…それが、不思議な体験なのでお話しが難しいのですが…

自分が大学生の頃、当時教会長であった父のガンが発覚しました。さすがに学費の事など心配になり、大学中退しようかと相談していたのですが、おかげいだいたってなんとか卒業させていただけました。その頃少し「跡を継がなければいけないのかな？」と、就活もあまりせずいたので、結局普通に就職し、数年後教会を出て一人暮らしを始めました。

しかししばらくして、なぜか分からないのですが、ある日急に「いままでご無礼な自分だった」という思いがうわあと全身に湧いてきて、今まで生かされてきた有難さが急に感じられたのです。今思えば、神様からのお氣付けだったのかな？と思うのですが、よく分からないままその有難い気持ちに突き動かされ、会社を辞め教会に戻ったのです。

金光教の事を殆ど分からないまま学院に入りましたが、先生方や同期の皆さんによくしてもらいました。帰ってからは、父亡き後必死に教会を守ってきた母と共に、分からない事は他教会の先生方に色々教わりながら、なんとかここまでさせていただいています。

○不思議な体験でしたね。私も同じような事があったので、説明しにくいお気持ちよくわかります。

昌…そうですね。もしあの体験が出来る機会があつて、皆さんがいつでも体験出来れば、もつとみな神様をありがたく感じ、世界は平和になると思ったりするのですけどね(笑)。まだまだ足りない所が多い私ですが、少しでもお役に立たせていただきたいと思います。○ありがとうございます。(今村則子)

## 「第二回輔教懇談会の報告」

標記の懇談会が二月一三日午後藤沢教会で開催されました。出席者は一二名（七教会）の輔教と、神奈川山梨連合会の福田会長、南副会長、藤沢教会の高橋教会長、高橋健雄先生が出席され、連合会布教研修部の堀端次長、高橋正一部員が運営に当たられました。会の冒頭に、福田連合会長から、輔教の役割や期待されていることをお聞きして、懇談に入りました。この日の懇談会は、連合会内の輔教が互いを理解し合うことを主目的に進められました。

懇談では、「いつ頃どういう動機で信心を始められたか、どのような信心生活を送っておられるか、どのようなきっかけで輔教になられたか」などについて一人あたり三〜五分間程度で全員が話し、質問や類似体験の紹介などで和気あいあいと進み、所属教会内で教会長のご指示に基づき様々な御用をされている様子がいろいろ報告されました。

輔教になられてから四年毎の更新研修を受けて更新してこられ、十数年も輔教を継続されている九十才を超える方がおられたり、昨年八月に一泊二日の研修を受け、年末のご本部での報徳祭で任命されたばかりの二十一歳の最若手の女性もおられました。その中で、教会参拝を毎日のようにされているとやるべき御用に気がつく

とか、先生からの御用の依頼をいただくとかのケース。やるべき御用は決まっておいて、長年やってきているので、自主的に動かれてお役に立っているケース。少年少女会リーダーになり、教会会議にも出席、教会誌の編集を永く御用として担当し、渉外担当を手始めに連合会の役員もされているケース。ご夫婦で輔教になろうと思いついたケース。フォーゲルの指導者をされていることがそのまま御用となっているケース。教会長の助けとなることを自ら進んで御用としてさせていただき、ご恩返しをこの辺でしたいと考えてご本部の輔教研修に参加されたケース。百二十年記念祭の御用に当たるのに輔教にならせていただけばいろいろスムーズに行くのではと一念発起したケース。一時間歩いて毎朝六時から教会でのご祈念を欠かさないご信心をずっと続けておられる人。輔教の勉強会に出たいと思っていたら今回の懇談会があった。楽しみにしてきた人等々が紹介されました。今後毎年、連合会内の輔教の集まりが持たれ、新しい活動も検討することになるでしょう。

金光教の教規で、「輔教は、本教の信心を伝えるため、進んで教会活動を担うとともに、教団活動に参画する。教団に所属し、教会又は本部に在籍する。」等々と決められています。大勢の方が輔教任命を受けられることが希望されています（小田原教会 辻）

## 〇かりんの輪

### 「つもりの信心から本気信心」

丸子教会 矢野隆彦

平成二十三年五月九日に、初めて丸子教会に参拝させて頂いた。その時、丸子教会の横山光雄先生の一言、「つもりの信心か」との言葉を、震えるような気持ちで受け取ることができた。今まで自分は、「がんばっているつもり」「信心をしているつもり」だったのである。それは、人間心で色々な処へ計算をしながらの生き方であった。また、原点である御取次さえも、頂いた「つもり」で、自分の考えで物事を前に進めていたのである。

今は、人心から、神心へ一歩でも二歩でも繋げるように稽古をさせて頂いている。

丸子教会初代横山敏三先生の教えで、現教会長に受け継がれているのが「おかげの筒の中で生かされて生きて居る」という精神であり、つまりは、生きておる原点には、先祖があり、親があり、家族があり、多くの仲間や知人が居るということを改めて知らされたのである。

起きてくること一つ一つがおかげの筒の中で生かされて居るということが、まず原点である。そして、親、兄弟あつての自分である。そのことを忘れてしまうと、いつしか親不幸をしていることも気づかないでいる。病氣に対しても、いつか治るつもりでいるから、無理をしたり、我慢をしたりしている。今まで、神様に手を合わせ御礼をしてきた

今年も建国記念日の2月11日午後、水道橋駅前の全水道会館で「首都圏女性の集い」が開かれました。今回は金光図書館長の金光英子先生を講師に迎え、「金光高清姫をいただく ― こんなはずじゃなかった人生を明るく―」という講題でお話を伺いました。四神様の奥様・喜代様は結婚生活15年で夫に先立たれ、その時お子様は13歳から0歳まで、8人いらしたそうです。安政6年生まれのお喜代様は学校教育を受けておられず、お裁縫もできなかったとか。素直で働き者の喜代様でしたから、農家の方と結婚していれば、非常に頼りになるお嫁さんになれたはず。しかも、結婚されたお相手は金光家の末の男子であるにも関わらず、思いがけなく教祖様の跡を継ぎ、取次者になられた。つまり「こんなはずじゃなかった人生」でした。喜代様のみ教えとして、①できることは何でも喜んでやる。②できたことにお礼をする。③できないことにおわびをする。という三つが残されています。袴を縫わねばならなくなった時、ご祈念をさせて頂くのですが、わからないところは見本の袴をほどこいて理解し、立派に縫われたとか。また生涯字を習い続け、大学を出たお子さんからも学問を学ばれたそうです。喜代様は言い訳も理屈もおっしゃらず、懸命に努力され、できたことはおかげとして心を込めてお礼申し、できな

## 第22回首都圏女性の集い 報告

かった時はわが身の至らなき努力不足をお詫びされたのです。

夫亡き後、13歳のわが子を金光様として頂き通し、共に生き抜かれました。そのご生涯は相当過酷なものだったと思います。笑いの絶えない明るい方だったと言います。喜代様の中に、神様を信じ切る、神様に委ね任せ切る、精神的な強い支柱があったからでしょう。か。神様を信じる生き方、宗教を持つ人生には凄いなものがある。改めて感銘を受けました。

金光様はお話を聞いて助かる道、と言われます。私のようないかげんな人間でも、こういうお話を聴かせて頂くと少しは反省し、愚痴不足を言わず感謝の日々を送ろうという気持ちにさせて頂きます。今、これをお読みのあなたとも感動を分かち合いたく、女性の集いのみならず、各種集会に参加して頂けたらと願っております。

(大塚東子)



講師の金光英子先生

つもり、分かっていたつもりの生活であった。

丸子教会では、年間テーマを決めて一年間そのことを目標に活動を進めている。平成二十三年、初めて参拝した時のテーマが「原点をみつめよう」であった。二十四年から二十五年は「おわびの心を大切に」、二十六年から二十七年は「お礼と喜びの生活を」、そして、二十八年は「よろこびを現そう」ということであった。どのテーマも、まるで私の事を言われているようであった。初めて参拝した時は、原点を考える余裕もなく、病気を治して欲しい一心であった。それが、全てつもりという認識から、神様第一に、お詫びをさせていただき、神様のお役に立たせて頂こうと思うようになる、日々喜びの生活に変わってきた。

そして、今年の一月二十四日、父の十年祭が四国八幡浜の川之石教会で行われた。丸子教会長も参拝された。ところが、前日の天気予報では「四国は大雪になる」という話であったが、前日ぎりぎりの判断で出発し、おかげを受けることができた。復路は、ご本部への御礼参拝もできた。まさに、二十八年の年間テーマの「喜びを現す」ことができた。しかし、まだまだ修行や稽古をして行かねばならず、現在治療中の右腕骨折と肝臓病との関係を通して、さらに一つひとつ丁寧に関係をお願いしつつ、喜びを持って前へ進んで参りたいと願っております。



### みんなのつどい②

#### 地引網集会のお知らせ

信奉者同士が世代を超えて協力して収穫を体験する…という願いのもと、本年は地引網に挑戦させていただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時：7月30日(土)10:00 JR 二宮駅集合  
 会場：二宮海岸 秋山丸  
 参加費：大人 1000 円、小人 500 円  
 その他：・昼食は会場で用意してあります  
 ・昼食後、ゲーム、海岸清掃  
 ・駐車場もあります

\*詳しくは、  
各教会宛のご案内をご参照ください。

#### 教師信徒共励会のお知らせ

昨年に引き続き共励会を開催させていただきます。本年も「私にとって教会とは」という統一テーマをもって言葉を交わして参りたいと思います。どうぞご参集ください。

##### ☆共励会①

日時：6月18日(土)13:30～15:30  
 会場：生麦教会  
 内容：発題2名、班別懇談他

##### ☆共励会②

日時：9月3日(土)13:30～15:30  
 会場：鎌倉教会  
 内容：発題、班別懇談(予定)

\*詳しくは、  
各教会宛のご案内をご参照ください。



### 〈 な が れ 〉

#### 『私の金光様』

大明教会 桜林繁夫

「金光さま」、子供の頃から、良い事悪い事、何があってもそう言って生かされて来ました。八年前の秋に次男(現四十二歳)のバイクに予備校生のバイクが追突し、左足を切断してしまいました。色々な事を考え不安な日々でしたが、不思議な事に私達家族と次男も、加害者を恨む気持ちが湧いてこないのです。加害者には一度会っただけですが、そう導いて下さった事も金光様です。秋の村祭りに毎年明るく楽しそうに神輿を担がせて頂いている姿を見ると、なんと有難い事かと思わされます。昨年の二月には、私がクモ膜下出血で二週間入院しましたが、障害もなく、おかげを頂きました。十二月には突然の病で家内が七十一歳で世を去りました。今は長男と二人、家事や食事の支度など忙しくしております。私は、神様に御無礼ばかりの人間ですが、こうして生かされている事は、金光様がまだまだお役に立て、修行をなさないと、感謝の気持ちにさせて頂きます。金光様はそんな神様だと有難く思わせて頂いています。これからです。

#### 金光教神奈川山梨教会連合会

発行 者 福 田 光 一

〒 221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五  
 金光教神奈川教会内